

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年11月13日(月)

みんなの居場所

【雑感】続「プロフェッショナル」について考えた

「プロフェッショナル」について考えた時、「仕事の対価としてキャパシティが発生する。」と考える。プロは大人だけの世界なのか。いや私はそんなはずはないと考え、「プロフェッショナル」あるべきだと考えました。この「プロ」子供のいるべき場所を指す必要はないかと考えました。私の考える子供のいるべき場所、それは「プロフェッショナル」の子供と「プロ」ではないかと。それはこんな感じなのか。

① 回事も素直である

私は大人になった今でも、1つの遊戯として「素直(真摯)」「謙虚」「感謝」について「職業」を肝に銘じています。意識して自然に行動して頂きたい。それは、仲間やお客様との関係構築のためです。

② 「遊び」+「運動」+「学習」の探求を促す

遊び、運動、学習、子供は遊ぶことが大好きです。遊びは遊び、運動は運動、学習は学習、それぞれをしっかりと行い、その中で学びを得ることが大切です。遊びと運動は、体力を鍛え、心を鍛えるのに効果的です。学習は、知識や技術を身につけるために必要です。

③ 様々な指導に従って、期待に応える努力を要する

最近の指導は、指導員が「あなたに何を期待していますか」という問いかけから始まります。これは、子供自身が「何を期待していますか」という問いかけを返すことが大切です。これは、子供自身が「何を期待していますか」という問いかけを返すことが大切です。

④ 成長を促す、お父さんお母さんへの期待

子供は「お父さんお母さん」の期待に応えることが大切です。これは、子供自身が「何を期待していますか」という問いかけを返すことが大切です。これは、子供自身が「何を期待していますか」という問いかけを返すことが大切です。

⑤ 「プロ」であること

「プロ」であることは、子供の職業観の芽生えを促すことに繋がります。これは、子供自身が「何を期待していますか」という問いかけを返すことが大切です。これは、子供自身が「何を期待していますか」という問いかけを返すことが大切です。

シリーズ「自分を語る」#100

入学式を終え、4月12日から通常の学校生活に戻りました。相変わらず、私は仕事のラインを頭の中でイメージできず、寝顔を得ながら自分の前の事を向かい合っていた。細やかな業務遂行でいた。この頃の私は、精神的にもおまの思っている状態ではなかったのではないかと振り返ります。誰しも、仕事の異動は入社を意味するものですが、私は昇任したためそれまでの仕事にそのまま適用するつもりではなかった。余計「ストレス」を感じていました。また、私の前任の教頭先生は入社生の教頭先生で、校長先生をはじめとする先生方が全編の信頼を置いていたのです。その中で、私は新米教頭陣田です。私も不安でしたが、先生方もとても不安だったのではないかと感じました。

新年度の備えだちの中で、あの地震が起きます。4月14日の夜の事です。私はこの時のことを今でも鮮明に覚えています。地震発生直後、私は無言で震動を繰り返す中、廊下を歩きました。あの時、私は「これは何事か」と思っていました。その時、私は「これは何事か」と思っていました。その時、私は「これは何事か」と思っていました。

震動が止まった後、娘が楽しそうに短大での生活を語っていました。それを聞いて、私も笑顔になりました。私が教頭に昇任したことが、家族全員を驚かせました。その時、私は「これは何事か」と思っていました。その時、私は「これは何事か」と思っていました。

揺れが収まり、妻で両親と立ち歩いて「地震? 某国での戦争か?」等の言葉が頭の中を巡りました。何が起きたのか想像がつかないのです。ニュースで何が起きたのかを聞き、私は「これは何事か」と思っていました。その時、私は「これは何事か」と思っていました。

揺れが収まり、妻で両親と立ち歩いて「地震? 某国での戦争か?」等の言葉が頭の中を巡りました。何が起きたのか想像がつかないのです。ニュースで何が起きたのかを聞き、私は「これは何事か」と思っていました。その時、私は「これは何事か」と思っていました。